

応援プラットフォーム協働事業 実施成果報告書

(区分) イベント名	該当に○をする (ちーたび・ちーびずマルシェ・女子のイチオシカフェ・その他) 彼方此方(おちこち)歩く仏光寺とその界限— 裂き織り体験で知る着物の今と昔
実施日	平成 26 年 7 月 2 日
参加状況	地域のガイド・対応者 (名前) 彼方此方屋 代表 たなかきょうこさん 京都ちーびず実施団体 (株)カスタネット  <p>イベント参加者 合計 14 名 内訳 (参加者 8 名、もてなし側 3 名、スタッフ 3 名)</p>
全体の評価 (簡条書きで 1~2 行ずつ)	<p>(事業目的達成状況、応援隊の登録状況による成果、課題、今後に向けて等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のことをよく知っている方の参加が多かったが、どこにどんなオススメのお店があるか載った MAP を用意してもらえたことで、興味深くまちあるきしてもらえた。 2. 着物がいかにエコであるかのお話を、昔の人々が最後のひと切れまで大切に活用していたか具体的にご紹介いただくことにより、参加者により深く知ってもらえた。 3. 着物という民族衣装のなんでも相談役として活躍されているたなかさんのお店が、いかに地域に根ざし 13 年続けてこられたかをお話いただけ、参加者にファンになっていただけた。 4. イベント終了後も、参加者とたなかさん、お店の従業員さんが個別に交流される姿があちこちで見受けられた。

「体験・体感・全員発言交流会」でのポイント意見交換の内容

※複数
のとき
は、用
紙を追
加して
くださ
い。(体
験・体
感・交
流会ご
とに記
載)

① ポイント（特徴、所感含む）

- ・着物地を裂いて糸状にしたものを使っての「裂き織り」という手法で、着物を余すことなく他に転用して日常生活に取り入れられることを、体験をもとに知ることができた。
- ・普段は着物と縁がなかったが、たなかさんのお話をお聞きして、着物は堅苦しいという概念が取り払われ、この機会に取り入れてみようと思った。
- ・祖母や母といった身近な人が大切に着ていた着物を、改めて手に取ってみようと思った。
- ・着物としてではなくても、裂き織りのように違う形にして使えることを知り、ものづくりをがんばってみようと思った。

② 地域のおもてなし側の意見、気づきなど

- ・皆さんに熱心に取り組んでいただけたことが嬉しかった。
- ・高級着物だけでなく普段着を考えると、ゴミ問題や天然素材、山林の保護、国産製品など興味は広がっていくので、この機会に着物に触れてほしいと思う。

③ 参加者側の応援意見など

- ・自然との共存共栄がいかに大切か再認識させられた。
- ・昔のことを、懐かしく思い出した。
- ・遠い存在と思っていた着物に対するイメージが、身近に感じられるようになった。
- ・着物の着付けができるようになりたいと感じた。
- ・彼方此方屋さんにまた来たいと思った。



仏光寺の紹介の様子



MAPを見ながらのまちあるきの様子



裂き織り体験ワークショップの様子①



裂き織り体験ワークショップの様子②